

次世代パフォーマンス評価を活用して質の高い学力をはぐくむ ー自己肯定感の育成を基盤に据えたシステムづくりー

綾部市立西八田小学校

全国学力・学習状況調査の結果における特徴

1 結果が良かった（伸びた）もの

国語科・算数科ともに、全ての領域・観点で全国平均正答率を上回った。特にB問題（活用）は、全国平均を20ポイント以上上回り、平成24年度の京都府学力診断テストの活用領域の結果と比較しても伸びが顕著であった。関心・意欲・態度を示す質問事項でも軒並み全国平均を上回った。

全国学力・学習状況調査の結果に寄与したと考えられる取組

授業における取組

1 実践の目的

授業の様子や各種学力テスト、児童アンケート等の結果から、特に、国語科・算数科への学習意欲の高まりがまだ十分ではないこと、難しいと感じる問題に既習事項を活用して解決する力に課題が見られること、自分に自信が持てない児童が多いということの課題改善のため取り組む。

2 実践の内容

- (1) 西八田パフォーマンス評価の授業でゴールを明確にして、付けたい力を確実に身に付けさせる。単元・毎時間の指導計画をゴールの児童の作品や表現・振り返り等から逆向きに設計する。
- (2) メタ認知の育成を明確にした授業で、学ぶ意欲や思考力・判断力・表現力等を育成する。
- (3) ライフスキル学習を教育課程に位置付け、自己肯定感をはぐくむ基盤をつくる。

3 工夫や改善した点

- (1) 「メタ認知」の育成を明確にした単元指導計画・授業計画



「メタ認知」とは、何かを実行している自分に頭の中で働く「もう一人の自分」。自分の思考や行動を客観的に把握し認識することで、自分の問題の解き方や学び方を振り返る力等を指す。左図のように、児童の頭の中でメタ認知のサイクルを働かせる授業を積み重ねていけば、児童にとって難しいと感じる問題や初めて見る問題にも主体的にチャレンジできる力を高められる。

授業の中で獲得させるべき「メタ認知的知識」を本時の目標・評価と対応させて設定する。また、そのメタ認知的知識が獲得できるようにするための教師の動きを「メタ認知的支援」として事前に明らかにしておく。事前に「メタ認知的支援」を計画することで、児童のメタ認知を高め、1時間および単元の学習定着率も高めることをねらう。

事象（メタ認知的知識）	メタ認知的知識	メタ認知的知識	メタ認知的知識	メタ認知的知識	メタ認知的知識
① ひき算(2)は、ひき算(1)の考え方を覚えて考えよう。	② 算数ブロックを使いながら(表裏)を考えると分かりやすい。	③ 算数ブロックを使いながら(表裏)を考えると分かりやすい。	④ ひき算が同じだと、答えが同じでやすい。	⑤ ひき算が小さいと解の間違いが簡単にできる。	⑥ ひき算が小さいと解の間違いが簡単にできる。
① ひき算(2)とひき算(1)では、解でいることは違いますが、	② 分からなかった時は、どのようにしたら分かりやすくなるかな。	③ ひき算(2)は、どのようにしたら分かりやすくなるかな。	④ ひき算が同じだと、どんなことが分かるかな。	⑤ ひき算が小さい時も、同じやり方で解けるのかもしれない。	⑥ ひき算が小さい時も、同じやり方で解けるのかもしれない。

着目するワード	内容	段階
わかりました・むずかしかった・できました・やりました・知りました・今まで知らなかった	事実の記載	A段階
～から、むずかしかった。～から(の)でかんたんでした。～なので便利だ。～なので間違っていました。～だから、わかりやすかった ※前後の文章の中に理由が書いている	事実とその理由	B段階
よくわかるので～しようとおもいます。気をつけよう。注意しよう	自分はどうしよう	C段階
かけ算もあるのかな?～もあるのですか?～もやってみたいです。～はなんというのですか?他にないか探して(調べ)みたいです。自分でも問題を作ってみみたいです ※実生活の場について書いている	他の場合を考える	D段階
算数が好きで十・いろんな算数の世界へ行こうとおもいます。算数は新しいものを作りたい出せるものだ	自分の学習や算数全体について考える	E段階

授業の終末に、振り返りを書かせることで、自分の学びを客観的にとらえさせ、メタ認知のサイクルを働かせるようにする。左図のようにA段階からE段階へと、よりメタ認知を働かせた振り返りが書けるようになることを目指し、児童の思考力・判断力・表現力等を高めるための素地を養う。

参考文献

「算数の授業で『メタ認知』を育てよう」
重松敬一（監修） 日本文教出版

(2) 「授業構想シート」と「授業づくりチェックシート」による授業計画の一般化・単純化

学	習	動	確認事項
1			導入は前時の振り返りを紹介したり、復習問題に取り組みさせていますか。
2			導入は単元の西八田パフォーマンス課題や学習計画を確認していますか。
3			課題との出会わせ方は、ストーリー性を持たせていますか。
4			めあては一方的に提示せず、児童の考えを引き出して提示していますか。
5			獲得させたいメタ認知的知識を意図してメタ認知的支援の声をかけをしていますか。
6			自力思考して自分の考えを書いてまとめる時間を確保していますか。
7			ペア・グループ交流の目的ははっきりしていますか。 (発表する自信を付けさせるための交流からの脱却)
8			全体交流は、話し合う目的がはっきりしていますか。 「Aの考えとBの考えではどちらがよいのか。」等 (新しい自分の考えを表現して終わらせる。児童から出た意見からもう一度教える(復習)を。))
9			一人一人の児童の学習活動量が確保できていますか。 (一部の児童だけの話し合いや教師の解説ばかりの展開からの脱却)
10			生徒指導の三機能・ライフスキルを生かした学習活動を工夫していますか。
11			算数では、道徳問題を解く時間を確保していますか。
12			学習課題や活用問題は、宿題に応じてレベル別の設定を準備していますか。
13			学習のまとめは、児童の考えを引き出して提示していますか。
14			振り返りは、1時間の自分の学びを客観的に振り返らせて書かせていますか。 また、メタ認知のレベルアップステップアップするよう教師のコメントを入れていますか。
15			次時の予告は、西八田パフォーマンス課題に関連させていますか。

20分程度で的確な授業計画ができるマニュアルを作成。教えることと考えることを明確にした授業づくりを展開。

研究授業を通して見出した授業づくりの確認事項について定期的にセルフチェック。自己の課題を明確にして授業改善を図る。

4 児童の変容や声、教師の変容や声

児童アンケートからは、「学習の見通しや目標が持てる」、「初めは分からない課題でも詳しく考えていくのがおもしろい」、「様々な方法を考えて課題解決するのがおもしろい」という学習自体への意欲だけでなく、考えることへの意欲の高まりもうかがえる。

授業づくりの方法をシステム化したことで、教師が授業のポイントを的確に押さえられるようになってきたり、教師自身が課題意識を持って授業改善に取り組むことができたりしてきた。

授業以外の取組

※掲載資料の詳細についてはホームページを参照ください。
<http://www.kyoto-be.ne.jp/nisiyata-es/cms/>

1 実践の目的（児童の実態を踏まえて）

発表する力や話し合う力等の表現力に課題が見られたので、スピーチ活動に継続的に取り組み児童の伝え合う力や考えを深め合う力を高めた。

また、家庭学習に取り組む姿勢が受け身な児童が少なくないので、中学校進学後も主体的に家庭学習に取り組める児童を育成するため、個別の学習課題を設定し計画的に取り組ませた。

2 実践の内容

- (1) 朝の会、全校集会でのスピーチ活動を通して伝え合う力を向上させた。
- (2) 児童が主体的に家庭学習に取り組み、個々の学力課題を改善できる家庭学習を実施した。

3 工夫や改善した点

(1) スピーチ活動

朝の会での1分間スピーチ後の感想交流では「言葉のキャッチボール」を重視して、互いに自分の考えを伝え合い深め合う力を高めることで、授業の中で話し合う力につなげた。

(2) 家庭学習

ア 週末課題「夢をかなえるプリント」を国語科・算数科で全学年が実施し、現学年までの基礎学力の定着を図った。

イ 中学校ブロック間で、家庭学習強化週間を実施し、児童に家庭学習の計画を立てさせた。

ウ 授業の習熟問題をはじめ、日々の家庭学習や長期休業中の宿題も個別の課題に焦点化した内容を計画し、「やればできるという体験」をさせつつ個々の課題を改善した。

エ 児童の変容や声、教師の変容や声

スピーチ活動で友達の考えに関連して話す力が授業にも活かされ、個々の発言力や集団解決での意見交流が活発になってきた。また、家庭学習の取組を通して、評価テストでの得点率が向上した児童がいたり、自主勉強で自己の課題に即した内容に取り組む児童が増えてきたりしている。